第２学年　生活科　学習指導案

１　単元名　　ひみついっぱい　わたしたちの大すきなまち

２　単元の目標

○　地域で働いている人々や様々な場所に繰り返しかかわる中で，自分たちが生活している地域に親しみや愛着をもち，地域にある公共施設や商店を正しく利用することができる。（関心・意欲・態度）

○　目的意識を明確にし繰り返し探検する中で，地域の人々と適切に接したり，探検して気付いたことを伝え合ったりすることができる。（思考・表現）

○　自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かる。（気付き）

３　単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
○　探検したい場所を決め，思いや願いをもって，地域の人々や様々な場所に繰り返しかかわっている。	○　目的意識をもち，安全に気を付けて探検している。 ○　探検して気付いたことを，友達と伝え合っている。	○　自分たちは，地域の人々とかかわりながら，公共施設や商店を利用して生活していることに気付いている。

４　単元と指導の構想

(1) 単元のとらえ

本単元は，小学校学習指導要領生活科の以下の内容をふまえて構成している。

> 内容（3）　自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり，それらに親しみや愛着をもち，人々と適切に接することができるようにする。
>
> 内容（4）　公共物や公共施設を利用し，身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり，それらを大切にし，安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

本単元では，自分たちが地域のたくさんの人々や様々な場所とかかわりをもっていることに気付くことが一番のねらいである。一人よがりだったり，自分勝手だったりする子どもたちが，探検を通してたくさんの人々や様々な場所とかかわりを深めていくことができるかが大きなポイントとなる。

そこで，地域を探検しながら，子どもたちが普段あまり意識せずにかかわっている公共施設・商業施設に目を向けることから単元をスタートする。当校のまわりには，駅・郵便局・図書館・幼稚園・保育園などの公共施設，飲食店・スーパー・小売店が多くあり，生活をしていく上で不可欠なものがそろっている。

何気なく生活している子どもたちが，地域で働く人の様子を見たり，自分たちが実際にその仕事を体験したりすることによって，いろいろな発見したり疑問を見つけてインタビューしたりする姿を期待している。そして，自分たちが生活していく上で，地域の人々や場所が大きくかかわっていることに気付かせたい。

また，探検で気付いたことをより深めるために「ひみつひみつはっぴょうかい」を計画し，探検した場所を他の子どもたちも疑似体験できるようにする。また,友達が探検した場所を疑似体験することで，新たな疑

問が生まれ，さらに探検したいと思う気持ちを育てたい。このように繰り返し探検することで，その場所に親しみを感じ,学習が終わった後にも進んでその場所に行きたいと思う子どもになることを期待している。

実際に多くの人々や場所とかかわりを深め，よく知ることで，地域への愛着をもち，人々と適切に接することができるように学習を進めていきたい。

⑵　子どもの実態と単元のかかわり

子どもたちは，これまで生活科の学習の中で，自分の野菜に愛着をもちながら栽培をする経験や１年生との交流学習の中で，１年生に教えてあげたり，一緒に探検をして楽しさを共有したりする経験を積んできた。しかし，このような学習の中でも，自分の興味をもつものだけに没頭するあまり，周りを気にしない姿や自分勝手な行動をとる姿が見られた。

また，子どもたちは生活科を好きな教科と答えているが，その理由の多くは活動が楽しいからというものである。例えば観察カードを書いても，一目見て分かる変化には，気付くことができる。しかし，生長についての驚きや感動は一部の子どもにとどまるだけで，全体で共有することができていないのが現状である。このように，活動を繰り返し行っても,「気付きの質」を高める働き掛けができていなかったのが指導上の問題点である。

これらのことから，本単元では活動の場を地域に広げ，繰り返し探検することで，自分たちのために多くの人が直接的・間接的にかかわっていることに気付き，地域が身近なものになることを願っている。また，このような態度が育つことで，地域に積極的にかかわることができるようになってほしいと考えている。

さらに，子どもたちが得た「気付き」に対して,「それはなぜかな？」「どうしてかな？」と疑問をもたせることで,「気付きの質」を高めていこうと考えている。

⑶　自己課題解決に向けた指導の方策

街探検は,子どもたちのこれまでの生活における経験知があるために,「気付いたつもり」になりやすく，ともすると遠足気分となり活動意欲が持続しない場合がある。そこで，気付いたことを他者に広めるという手立てを立てることで児童の活動意欲を継続させ，学習を広げ，深めるようにしていくことにした。

そのために，以下のような単元構成と働き掛けを構想した。

①　地域への興味・関心をもたせ，かかわりのきっかけをつくる。

【すてきなすてきな　街さがし】をテーマに，街探検に出かける。駅・郵便局・スーパー・ビデオレンタルショップ・図書館など，自分たちが直接的・間接的にかかわっている場所へ行き，興味・関心が高まるようにする。

②　主体的な活動を促し，かかわりを知り，深める。

【すてきなすてきな　街さがし】を受けた【もっと知りたいな】では，子どもたちがさらに詳しく知りたい場所に探検に出かける。その前に全体で「探検に行く場所で知っていること」を話し合わせ,みんなが知っていることを明らかにする。その上で「みんなが知らない秘密を探そう。」と意欲を高め，探検に出かける。そしてたくさんの秘密を知った子どもは，みんなに伝えたくて仕方がないという思いをもつ。

その思いを大切にして，次の【ひみつひみつはっぴょうかい】では，友達に気付いたことを伝える活動を行う。よく知らないと【ひみつひみつはっぴょうかい】は成功しないので，さらに自分の知りたいことを明確にした探検に出かける。その際，方位が分かる地図を用意し，3 年生以降の社会科の学習にもつなげる。

また，よりよく人とかかわることができるようにするために，インタビューの方法やお願いの仕方などといったかかわり方や接し方のスキルも指導していく。また，活動を振り返る学習カードや掲示物を工夫し,学習環境を整えることで活動意欲の継続をはかる。

③　新たな疑問をもたせ，気付きを深めていく。

【すてきなすてきな　街さがし】をして，気付いたことを発表するだけで終わらない「ひみつひみつは

っぴょうかい」を行うことには以下の意味付けがある。

一つ目は，探検して気付いたことを口頭で発表すだけではなく，出会った人々やその場所の様子を再現することを通して，地域や地域の人により愛着をもてるようになると考えたからである。生活科の最終的な目標は「自立への基礎を養う」ことである。学習をした事柄が生活に生きていかなければならない。単元が終了した後には，「次は，お家の人をつれていってあげたいな。」「転校したお友達に手紙を書いてみよう。」などの姿を期待している。

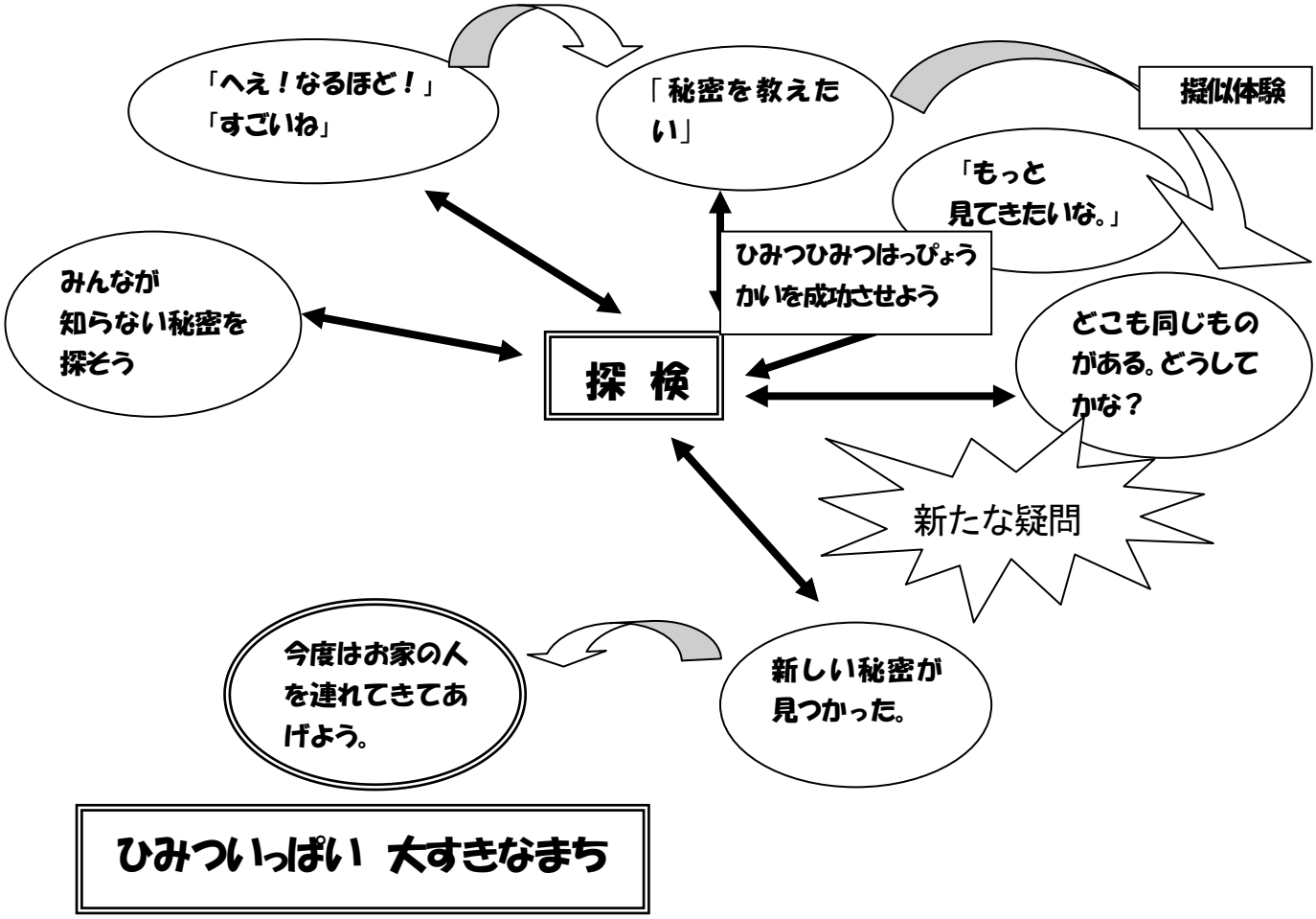
二つ目は，探検して気付いたことを再現し，学級の友達に疑似体験してもらうという明確な目標をもつことで，分からなかったことは，もう一度見てみよう・聞いてみようという気持ちにさせることである。その気持ちをもつことで，目的意識を明確にして探検できると考える。

疑似体験した後に，それぞれの探検場所で「共通な事柄」がたくさんあることに気付かせる。共通な事柄に注目させ「どうして？」と子どもたちに返すことで新たな疑問をもたせたい。この新たな疑問を解決するために【もっともっと知りたいな】でもう一度探検に出かけ，気付きが深まることを期待している。

５　単元の指導計画（全 23 時間）

次(時)	○学習のねらい ・主な学習活動	評価の観点			
		関	思	気	具体的内容
一次 3 時間	第１次【すてきなすてきな　街さがし】 **○　街探検を行い，地域に関心をもたせるようにするとともに，自分がもっと知りたいところを見つけることができるようにする。** ・街探検に出かける。	○			※もっと知りたい場所に関心をもっている。
二次 6 時間	第２次【もっと知りたいな】 **○　自分が決めた場所へ繰り返し探検に行き，インタビューをしたり，体験をしたりする。** ・インタビューの方法やお願いの仕方を練習する。 ・自分の決めた場所へ行き，知りたいことをインタビューする。 ・自分の決めた場所へ行き，やってみたいことをお願いし，体験する。		○	○	※インタビューの方法や訪問のマナーが身に付いている。 ※探検に行って気付いたことをカードに書く。
三次 9 時間	第３次【ひみつひみつはっぴょうかいを成功させよう】 **○　自分たちが探検で気付いたことを友達に伝えるために「ひみつひみつはっぴょうかい」をする。** ・自分たちの店を再現する。 ・自分が探検していない場所を疑似体験する。 （本時　9/9）	○	○	○	※　自分たちが気付いたことを分かりやすく伝えるための店作りを考えようとしている。 ※　相手によく伝わるよう，不明な点を明らかにするために再び探検に行く。 ※　自分が探検していない場所についても，どんな場所なのか知ろうとしている。
四次 5 時	第４次【もっともっと知りたいな】 **○　自分の決めた場所へ再び探検に行き，もっと知りたいことについてインタビューする。** ・新たな疑問に対してその答えを予想する。		○	○	※新たな疑問を見つけ，それを探るためにインタビューをしている。 ※探検して分かったひみつをカードに絵で描いたり，文で書いたりして，発表する。

間	・秘密を探るために探検に出かける。 ・秘密の発表会をする。 ・かかわった人に礼状を書く。				※地域が自分たちと身近な関係であることに気付く。 ※探検場所に，自ら進んで行ってみる。



６　本時の学習（指導　全 24 時間，本時９／９　第３次７時間目）

(1)　本時のねらい

それぞれの探検した場所を疑似体験することで，「ひみつ」を共有し，新たな疑問をもつことができる。

(2)　本時の構想

本時は，「ひみつひみつはっぴょうかい」で疑似体験したことから「気付き」を共有し，さらに「気付きの質」を高めるために，新たな視点をもたせる時間である。

初めに，それぞれの探検した場所を疑似体験する。その結果，子どもたちはこれまでの経験では知らなかったことがたくさんあるのだということに気付く。その後，それぞれの「気付き」の中には，共通のものがあるということに気付かせ，これらのことがなぜあるのかということに目を向けさせることで，「新たな疑問」をもたせる。これまで主に見ることで得られた「気付き」に加え，インタビューによって得られる「気付き」という視点を与えることで，４次の探検におけるインタビュー活動につながっていく。

学習内容・活動	主な教師の働き掛けと子どもの反応	・指導上の留意点と	評価

(3)　本時の展開と評価

1　友達が探検した場所を擬似体験する。(30 分)	今日は「ひみつひみつはっぴょうかい」です。探検して知ったことをこれまでみんなにひみつにしていましたね。今日はそのひみつをみんなに分かりやすく教えてあげましょう。発表を聞く人は,他のグループの発表で新たに分かったひみつをプリントにかきましょう。 (　　)は，疑似体験の方法 ・駅グループ…切符の機械の裏側を見ました。自動改札機もありました。(段ボールで作ったもので実演) ・図書館グループ…書庫を見せてもらいました。みんなに優しい図書館です。(劇) ・スーパーグループ…肉を切る機械を見せてもらいました。(段ボールで作ったもので実演) ・レンタルショップグループ…本にビニルをかける機械を見せてもらいました。(段ボールで作ったもので実演) ・郵便局…印を押す機械を見せてもらいました。(段ボール作ったもので実演)	・地図を貼っておく。 ・第１次に，話し合った「探検場所のみんなの知っていること」の紙を貼っておく。 ・「ひみつ」を書く時間を確保する。
2　気付いた「ひみつ」を発表する。(10 分)	○　新たに分かったひみつを発表しましょう。 ・駅にはスイカがあったよ。 ・ほんぽーとで本を借りるときはバーコードで借りるんだね。 ・レジはバーコードをピッと通すんだね。 ・郵便局では素早くはんこを押す機械があるんだね。 ・本にかかっているビニル袋は，お店でかけているんだね。 ・ゲートを通るとき音がなることもあるんだね。	・共通の「ひみつ」に気付くよう板書する。
3　共通の「ひみつ」から「なぜ」に気付く。(5 分)	たくさんの「ひみつ」に気付きました。この中でどのお店にもある同じ「ひみつ」を探してみましょう。 ・どのお店もピッという音がするね。 ・どの建物も大きい。 ・どこもきれいに整とんされている。 ・熱心に仕事をしている。 ・お店の人はやさしい。 ふしぎですね。どうしてこのようにピッという音がするのかな。何の役目かな？ ・ピッという音で買い物の金額が分かるよ。 ・お店に行って,○○さんに聞いてみたいな。	・共通の「ひみつ」が出なかった時は，こちらから投げ掛ける。 ◇評価（思考） ・共通の「ひみつ」に気付き，新たな疑問をもっている。 【行動・カードの記録】
4　次時の活動を確認する。	次の時間は,これまで見つけた「ひみつ」の中から「どうしてかな，不思議だな？」と思ったことを探し，それを解決する探検に出かけます。	